

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891300044		
法人名	niha		
事業所名	グループホーム村いちばんの元気者(やすらぎの家)		
所在地	兵庫県丹波市市島町上竹田2322-1		
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和3年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者様とその人らしくいきいきと生活できるよう支援すること
②家族様が介護を安心して委ねられること
③地域の方を対象にした認知症理解のための啓発活動
④利用者様主体の合唱団活動などの生きがいづくりや、法人独自の「いきいき人財センター」の取り組み。
⑤職員の資質向上のための研修(外部、内部研修)の充実

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>前回調査時の目標達成計画(2019年1月31日)で、「外出や行事に家族の協力」「法人内の特養との外出行事」「地域のボランティアの把握」「地域への情報発信」をかかげて、それなりに成果を上げてきた2020年4月に、コロナ(第1波)の緊急事態宣言が出て、環境が一変した。職員は、利用者をコロナ感染から守ることに全力で取り組み、そのため家族との面会制限や、「父の日」「母の日」「敬老の日」などもこれまでの行事ができず、利用者ご家族には大きな影響が出たが、なんとか工夫をして、ホームの運営方針「五つの大切」(「その人らしさ」「家族との絆」「地域とのつながり」「家庭的な暮らし」「安心・安全」)を実現してきた。しかし2021年1月に兵庫県を含む11都府県にコロナ(第3波)緊急事態制限が出されたが、新規感染者数の減少傾向や2月17日に医療従事者からワクチン接種開始など明るい兆しが見えてきた。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のユニット会議において、グループホームの運営理念の唱和を行ない、理念の共有を図り支援に繋げている。	事業団の理念はひとり一人を尊重し自らの意見と責任で、その人らしい生き方が出来る様支援する他4項目とグループホームは家庭的な暮らし他4項目で事務所内に掲示し、確認はリーダー会議とフロア会議時に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	馴染みの方(地域の方、知人)が気軽に来てくださっていたが、地域の人口減少や、利用者様の入れ替わりなどで、訪ねてこられる方が限定されてきている。コロナ禍でさらに交流が激減している。	コロナ禍で色々制約のある中グループホームからは4回便りを出し、利用者の写真と状況をお知らせし、事業団よりも年3回広報紙を出しており、家族間を埋めている。又事業団よりフェイスブックを作成し家族より喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームは地域の小学校の通学路にもなっており、子供を守る家として協力するなど、地域へ貢献する活動を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践状況出来ている。頂いた意見は検討し、反映できるように努めている。グループホームの認知度が上がり、関係者との繋がりも途切れることなく続いている。	メンバーは家族代表・自治振興会長 民生委員・市包括職員・社協職員・施設長・担当課長が出席し活発な双方向の会議となっている。ホームよりはパワーポイントで取り組みを、欠席者には議事力を配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を行ない、市町村に事業の実情やサービスの取り組みなどを積極的に伝えている。	市への相談事は介護保健課や丹羽市あんしんセンターへ電話やメール・訪問で対応している。又地域密着ネットワーク会議が年4回開催されており市の介護保健課も出席し相談事も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離床センサーや、人感センサーの使用を含めて、利用に関して慎重に検討を重ねて使用している。また、解除に向けての話し合いを行なっている。	身体拘束ゼロ推進委員会グループの丹寿荘本体・短期入所・デイサービス・グループホームのメンバーで構成され毎月会議が行われている。委員会主催の研修会を年2回とグループホームでは毎月のユニット会議にて確認されている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の指針を元に、ユニット会議等で利用者のケアに関して、虐待にならないように支援のあり方について、話し合いを行なっている。	虐待防止委員会を身体拘束と同様に開催され虐待防止に努めている。職場内にてなにか問題があればお互いに、注意し合える体制で、仲間意識もよく離職者も1年間なしとの事です。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する理解に関しては、定期的OJTで学ぶ機会を作っている。今年度はまだ実施していない。	成年後見制度の利用者は現在はいないとの事。研修もされてないとの事で、今後利用者や家族より相談があれば対応出来る様に司法書士やあんしんセンターに講師をお願いし研修する様におねがいす。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外でも、都度説明を求められる時があり、きちんと説明している。改定等があれば文書で説明をしている。	入所時に本人・家族に重要事項説明書・看取りの指針書・個人情報など詳しく説明し、同意を頂きサインを得ている。職員に対しても同様の説明し、理解を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月ごとにカンファレンスや面会時など、必要時には家族様の意見を取り入れている。苦情受付の窓口があることも説明を行っている。	利用者・家族よりの要望等は現在面会禁止になっている為、電話・書面にて確認している。契約更新1ヶ月前に家族より要望を確認しケース記録に入力して、全員が確認出来る様にしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員と個人面談を行い、必要に応じて業務の改善につなげた。また、ミーティングやユニット会議などでも意見を聞く機会を設けている。	フロア会議が毎月開催され、意見を述べる機会はあるがあまり要望は無いようである。職場環境もよく、ゆっくり過ごせる休憩室もあり、職員は年2回個人面談もあり要望を述べている。	コロナ禍で頑張ってきた、管理者以下職員一同の苦労は大変なことだと思いますが、コロナが収束した段階でホームの運営を一日も早く従来の状況に戻せる方策について検討されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態を職員の要望をできる限り聞きながら、実情に合った形態にできるよう検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われる職員に対して、職場内における研修に参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワーク会議に参加して、サービスの質の向上に取り組む話し合いを行なっている。		

自己	者三	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家庭での生活の様子や、趣味など、ご本人がこれまでに培ってきた情報を元に、信頼関係を気づくための会話のヒントにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が家庭で困っておられた課題を聞き、ホームでの生活においてどのように生活していただくかの要望を元に、目標を定めて支援を提供し、信頼関係を構築している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけ要望の「最優先事項」の解決に注力し、問題が解決できない場合は、関係機関への協力を求めて、解決できるように対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理作りや手作業、洗濯物たたみや掃除など、暮らしに関することで一緒にできることは、ご本人にさせていただいている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも通院や食事介助など協力を頂いている。気軽に訪問していただける雰囲気を作っている。			
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方(地域の方、知人)が気軽に来てくださっている。通院や買い物以外で利用者様の馴染みの場所に出かけることが少ないので、毎年の課題になっている。	コロナ禍であまり外出や人の訪問も無く、現在は静かに過ごされている状態で、今後春になり、コロナが収束すれば、色々な楽しみがまつてると理解されている方が多い。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の中で、ご利用者様同士の相性を考慮しながら支援員が間を取り持ち、共同でできる作業を通して、お互いに支え合って生活していく関係性の構築に努めている。			

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、ご家族への相談窓口として対応し、必要が生じた場合は相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ、思いや希望に添える様に努めている。 思いや希望が言える関係作り、雰囲気作りを大切にしている。	職員は担当性をしいており、日々接する中で思いを読み取り(誕生日会の食事の要望等)、ケース記録に入力し全員が確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活の中に馴染みの生活を取り入れ、生活していただいている。混乱が増えた時にはケース記録などを基に、ユニット会議等で振り返りケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングなどでも出来ている事の報告を行い、心身の変化や有する力の変化の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の介護経過の作成、ユニット会議でご利用者の課題についての議論を通して意見やアイデアを介護計画に落とし込むようにしている。	介護計画は短期3ヶ月・長期6ヶ月で対応し、その間に体調変化があれば即修正している。介護計画はチーム(管理者・看護師・ケアマネ・ドクター・担当者)が家族からの要望も入れ作成し家族へ説明し了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	絆(ケース記録)に、各ケアプランの実施や活動の項目に日々の様子やケアの実践結果、気づきなどを記録し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の出来ている事に着目し、法人独自の人材センターの仕組みを利用し、個々の能力を考慮しながらニーズに対応している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の生活拠点の中で、公共施設や、公園、道の駅等、暮らしの中で楽しめる場所の外出や、こども園、小学校、地域コメンなどの交流を行ない協働している。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院されているかかりつけ医に引き続き受診している。大きな病院への定期受診は家族様にも協力を頂いている。	入所時に家族の希望を入れきめている。現在従来の方が6人ホームのかかりつけ医が12名。基本は受診体制である。又月2回認知症疾患センターのドクター(精神科)が来られ10名の方が往診を受けている。又受診は家族の対応が基本となっている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置により、利用者様の心身の状況を適切に相談できる様になった。適切な受診を行うことができるようになった。看護師を講師としてOJTの開催や機器の取り扱いなど説明を受けている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医を持ち、緊急性が高い場合は連携できる総合病院等へつなげられるように、情報交換や相談に努めている。看護師より医療情報の提供を行なっている。	入院時にはホームより地域医療連携室に情報を提供し、情報交換を密にしている。入院中は面会禁止であり、電話等の対応で、退院時には再度連携室と連絡を取りスムーズに退院出来る様に連携を深めている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態変化に合わせて、ご家族様とカンファレンスを行い、今後の重度化や終末期のありかたについて、話し合いを持つ機会を作っている。	重度化や看取りに関しては入所時に本人・家族へ指針書に基づき詳しく説明し了解サインを得ている。本年度看取りの手続きがあったが現実には例はない。体制は看護師を中心に研修もあり整っている。看取りに関しては色々な議事録を残し話し合い、方針を共有している。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて看護師等のOJTを受け、訓練を行なっている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月建物の防災設備点検を行なっている。年2回の防災避難訓練を実施して、災害対策を行なっている。	ホームエリアはハザードマップより災害に対して大きな問題は無いが丹寿荘本部との協力と地域の2分団と運営推進メンバーの協力で年2回の訓練体制が出来ており、備蓄も約3日分の食品・衛生品等一覧表にし整備している。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄介助時に同性介助が出来ない時がある。ただ、同性介助が行えるときは確実に同性介助を行っている。勤務枠にとられずユニットを超えて協力するなどの工夫をしていく必要あり。	利用者を人生の先輩と考えプライドと尊厳を傷つけ無き様に日々の介護に当たっている。支援には研修にて接遇を基本に呼び方・トイレへの声かけ等、羞恥心に配慮し、あったかサポートにより振り返りもし、日々の支援に当たっている。又個人情報等の資料はカギのかかる場所に保管されている。	
		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、希望や思いを出していただくように努めている。職員の間いかけで思いを言われる方もあり、自己決定が出来る様に働きかけたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は若干職員側の決まりや都合を優先している傾向あり。ゆったりと利用者様のペースに合わせた支援が今後も必要になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の季節に合わせた衣類や、TPOに合わせた服選びを行なっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は明るい雰囲気の中で食べていただけるように、音楽を流したり、意欲のある利用者の方と一緒に食事の準備を行なっている。	食事は朝・晩は職員が食材を購入し・メニューも作成している。昼食は本部の丹毒荘より配達され職員が検食をし、より美味しく対応している。誕生日会には本人の希望食が造られ全員で楽しまれている。外食はコロナで出来ていない。又食事は職員(弁当)と一緒に会話しながらされている。	
		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量に応じて、提供量を調節したり、食事摂取量をチェックして不足が無いかを確認している。水分量が少ない方は、水分が摂取出来る方法を考えて、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの支援を行なっている。入れ歯の方は、就寝前は必ず外して口腔ケアをしていただき、入れ歯洗浄剤で入れ歯を洗浄している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ失敗が少ないように、トイレのサインを察知してトイレに案内している。また、定期的にトイレに案内し、便器での排泄ができるように支援している。	個々に排泄パターン表を作成し、声かけにも十分配慮をしトイレへと誘導している。衛生品は自宅からの持ち込みとホームでの購入があり、希望によっている。夜間の見守りも安眠妨害になら無き様に個々に時間・回数を決め対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ便通にいい食材を提供して調理している。歩行などの運動への働きかけを行なっている。便秘が顕著な方は、服薬によるコントロールも行なっている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴にお誘いしているが、急な希望や拒否などにも柔軟に対応して、安全に、快適に入浴していただけるように努めている。	入浴は週2～3回で、毎回お湯を変え、ゆったりとして頂いている。季節ものでは柚子湯・入浴剤を使用し、希望によっている。水虫対策もよく出来ており、少ないとの事。入浴拒否者には時間・人・日時を変え、対応している。個浴のため機械装置は無いが特養での利用もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にし、体調を整えるなど一人一人が安心して休める環境作りに取り組む、夜間に安眠できるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変更があった場合は、その効果について様子をケース記録に残している。目的なども伝達・共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた生活支援を行なっている。また、その場所や道具などを提供して、楽しみごとや気分転換を図っていただける支援を行なっている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望の外出が出来る様に支援したい。利用者様によっては外出の回数にはばらつきがある。出来るだけ機会の少ない方にも外出する機会を設けたい。季節に合わせて、ご本人が喜ばれると思われる場所への外出の企画、実行をしている。ご利用者様にも希望をお聞きしている。	コロナ禍で外出の機会は制限されているが、施設周辺へと外気に当たり、日光浴をし季節感を味わっている。又季節により桜・菖蒲。あじさい見物へと車で出かけている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際など、ご利用者様がお金を使用できるように支援している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できるだけご家族と電話や手紙のやり取りができるように、必要に応じて対応している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、季節、温度、時間等に応じて、調節している。清潔を保てるように整理整頓し、危険な物を置かないように留意している。また、季節の壁紙を造り、季節の移ろいを感じていただけるように配慮している。	共用空間は広く・明るく・清潔感がありリラックス出来る場所となっている。周囲の壁には利用者や職員の共同作業による飾り物等があり、季節感を醸し出している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や自室を利用して、思い思いに過ごせるように居場所作りを行なっている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々のご利用者様の特性に合わせた部屋作りを行なっている。	ホームより空調・ナースコール・トイレ・洗面台・押し入れが設置、利用者よりはテレビ・タンス・ソファ等・家族の写真等が持ち込まれ家庭の延長感もあり居心地よく過ごせる空間となっている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の「できること」「わかること」は積極的にご本人にさせていただき、日常生活で身近に行なっている事をさせていただき、自立した生活を少しでも遅れるように、助言や支援を行なっている。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

## 基本情報

事業所番号	2891300044
法人名	社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
事業所名	グループホーム村いちばんの元気者
所在地	丹波市市島町上竹田2322-1 電話 0795-85-6301

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【情報提供票より】令和 2年 12月 20日事業所記入

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 9月 1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 名				
職員数	17 名	常勤	12名	非常勤	5名	常勤換算	14,875名

### (2) 建物概要

建物構造	単独型 鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-----------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無し			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有り(144,000円)	有りの場合 償却の有無	無(退去後の居室クリーニング代差し引き年金)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,020円			

### (4) 利用者の概要(令和2年12月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.3 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	回春堂 中澤医院
---------	----------